

事務所訪問

町民の安全を確保し、災害に強いまちづくりを目指して。 湯沸高台避難道路と新庁舎を整備

浜中町防災対策室

令和3年1月、道東の浜中町の役場新庁舎が完成。同年10月には「湯沸高台避難道路」が開通した。防災設備を整えた新庁舎は避難道路と併せて、霧多布地区住民の防災拠点となる。湯沸高台避難道路と新庁舎の建設を進めてきた浜中町防災対策室にお話を聞いた。



浜中町防災対策室防災係
係長 串田 之宣 氏



浜中町建設課
課長 渡部 幸平 氏

——湯沸高台避難道路の特徴と整備事業の背景を教えてください。

津波や高潮などが発生した際、高台へ避難するための道路は、これまで市街地の両端に2本あるのみでした。そのうち1本は旧道のような細い道路で、車2台すれ違うのがやっとという状態。何かあれば、もう1本の道路に交通が集中すると予想され、かなりの渋滞が考えられていました。

そこで、高台に続く道路をもう1本整備しようという議論が起り、市街地の中心部を走る霧多布中央通と高台の町道を結ぶ「湯沸高台避難道路」の整備が計画されました。

規格は3種4級、車道幅員8.0m、片側歩道で歩道幅員は2.5m、総延長は675m、起点は霧多布中央通の終点で、湯沸高台の町道に繋がるところが終点となっております。地形等の制約により最大勾配が7.4%となっております。



写真1 湯沸高台避難道路

<https://www.townhamanaka.jp/kakuka/soumuka/soumu/201901.html>からすべての写真を借用しています。

ます。また、旧庁舎敷地に構築された盛土区間には、住民等が迂回せずに道路を横断できるよう、カルバートでトンネルを設けています。

——ほぼ同時に工事が進められた新庁舎移転の事業背景と、新庁舎の特徴を教えてください。

平成24年6月に北海道から、津波発生時の浸水予測が発表されました。その中で、浜中町は海拔13.9mまでの範囲で浸水が起こるということでした。旧庁舎は海拔3.2mの位置にあり、完全に浸水してしまうため、災害時の対応、指揮が取れません。そこで、高台への移転が検討されました。

設計のコンセプトは「災害に強い庁舎」です。移転場所は、湯沸高台避難道路の途中。庁舎自体が避難施設になるような造りにし、災害時でも避難者を一定期間収容しながら庁舎の機能を発揮できるようにしています。海拔は42mです。

具体的には、庁舎の隣に防災発電棟を設け、500kvaの発電機を格納。停電時には72時間以上連続運転が可能です。給水に関しては、庁舎向かいの敷地に造成した防災広場に、防災貯留槽を設置し、常時800tの水を貯蔵しています。この貯留槽は、従来使っていた霧多布市街地への給水ルートを変更したもので、普段から水道水として使用するものです。そのため、高台には常に800tの新鮮な水がある状況をつくることができました。

備蓄に関しては、庁舎内と高台に備蓄コンテナを設け、食料、生活必需品を保管しています。またトイレについて

は、庁舎の敷地内に埋設した250tの緊急汚水槽により、避難者が大人数でも平常時と同様に利用することができます。庁舎の避難者収容能力は584人。高台にある町営の「霧多布温泉ゆうゆ」の500人と併せて、周辺住民の総数、約1,000人を満たすことが可能になりました。



写真2 平成30年11月に着工し、令和3年1月に開庁した
浜中町の新庁舎

——道路、新庁舎ともに建設中にご苦労した点 ありますか？また、工夫した点を教えてください。

道路は平成30年11月に着工し、令和3年9月30日に完成しました。想定外のことはほとんど起こらず、順調に進んだと思います。ただ、道路工事の切土で発生した土砂を埋め立てて防災広場を造成する予定でしたが、埋め立ての際に軟弱地盤であることが判明し、その置き換えに追加工事が発生しました。

庁舎の工事に関しては、もともと牛の放牧地だった敷地で、ボーリングした際には分からなかったのですが、工事を進める中でシルト土壌が広がっていることが分かりました。その置き換え作業を行いました。

またこれは設計段階で出てきた案なのですが、歩道を通って庁舎に向かうと、歩く距離がかなり長くなってしまったため、避難道路の途中から庁舎前のエントランスに抜けられるように、階段を造ることになりました。のり面に階段を設置したのですが、これがなかなか設計通りにいかず、何度も計画を変更したり、修正が必要になったりと苦労しました。また、歩きやすくするために、部分的に階段ではなくスロープを採用するなど、工夫をしました。



写真3 庁舎のエントランスへと続く避難階段

——整備後の効果や、防災に関して住民への周知活動などはいかがですか？

湯沸高台避難道路と新庁舎、この2つがセットで強固な防災拠点となり、防災のシンボルになっただけでなく、遠方からでもよく目視できる町のランドマーク的な存在にもなりました。そのため、避難施設であることは町民にも十分認知されています。

もっとも大きな効果は、湯沸高台避難道路が完成したことで、避難経路が増えたこと。霧多布市街地からほぼ最短距離で高台に上れるようになり、避難時間が大幅に短縮されました。津波を想定したシミュレーションでは、地震発生から5分後に避難した場合、全員が避難し終わるまでの時間が22分でした。旧役場までの津波到達時間が27分とされていたから、全員が避難できる計算になります。ただ、状況によっても避難にかかる時間は変わりますので、今後も避難訓練などを定期的に行い、万が一に備えたいと考えています。

避難道路と防災拠点となる新庁舎が完成したことで、地域住民の方々からは、安心感が大きくなったという声も聞かれています。

また、新庁舎には町外からの観光客にも足を運んでもらえるようになりました。庁舎のエントランスには、町内産のカラマツやドマツをふんだんに使い、来庁者がリラックスできるような空間にしています。ガラス張りの展望ロビーからは、浜中町内や太平洋を一望でき、庁舎内には浜中町出身で『ルパン三世』の作者、モンキー・パンチさんにあやかって、ルパンをはじめ登場するキャラクターをモチーフにしたサインを採用していますので、観光客からの評判も上々です。

今後も庁舎を拠点に、防災への啓発に取り組んでいきたいと考えております。



写真4 琵琶瀬湾から浜中湾を一望する展望ロビー